

「みんなにすすめたい一冊の本」の発刊に寄せて

この度、あいちの小中学生の皆さんのために、「みんなにすすめたい一冊の本」が作成されたことをたいへんうれしく思います。

冊子の内容を拝見しますと、五十人の「愛知県ゆかりの著名人」の方々と、県内各市町村にある図書館や公民館の方々から、心に残った本や皆さんに読んでほしい本が紹介されています。著名人の方は、文化・芸術、スポーツ、学問、企業など活躍される分野こそ違いますが、それぞれ一流と言われている人たちです。図書館の方々は、いわば本の専門家です。この冊子を通して、それぞれの道で自分自身を磨いてきた人たちの感じ方や考え方などにふれながら、多くの良書と出会えることは、とても貴重なことだと思います。

私も若いころから読書が好きで、これまでずいぶん多くの本を読んできました。そのことは、仕事をしたり、人とかかわったりする上で、また人生を豊かにする上で、大いに役立っていると感じています。読書は、知識はもちろんですが、感じる力や考える力、表す力、言葉に対する感覚など、多くの恵みをもたらしてくれます。「想像力」もその一つだと思います。

昨年、愛知県出身の益川敏英、小林誠の両氏がノーベル賞を受賞されました。この世界的に認められる研究は、まさにお二方の並外れた「想像力」の結晶ではないかと思えます。また、この冊子に紹介されています様々な分野の著名人の方々も、おそらく物事を成す「想像力」に富んだ人たちであろうと推測されます。もちろん、日々の生活の中で他人の気持ちを想像する力は、人を思いやる気持ちにつながるものです。こうしてみますと、「想像力」は、わたしたちが勉強や仕事をしていく上でも日常生活を送っていく上でも、とても大切な力だということに気付きます。

皆さんも、ぜひ、若いころから読書に親しむことに心がけ、豊かな「想像力」を身に付けてほしいと思います。その一つのきっかけとして、本書が大いに利用され、様々な著書との出会いがあることを願っています。

最後になりましたが、本を紹介してくださった著名人の方、公共図書館の方々をはじめ、この冊子の作成にご協力いただきました関係者の方々に心から感謝申し上げます。

平成二十一年十月

愛知県知事 神田 真秋